

**36. 小児期に於ける外因性再感染肺結核症** 岩井孝義  
(京大結研第2部)・上田千里(同前・結核予防会京都府支部)川田典徳(同前・加茂川病)

成人急死者剖検で結核所見のあつたもののうち、20.2%に再感染を認め、これが治癒率は初感染巣に比して悪く、気道性二次巣を起すことが強いので、結局直接撮影すれば確実に診断されるものでは、初感染気道性44.9%血行性13.0%に対し、再感染42.0%であつた。小児剖検が少ないので、X線的に考察したが9才までには見えず、13才以上では16才から20才までと似た位に現われることを知つた。

**37. 結核小血行転移に関する研究** 岩井孝義・岸本弘一(京大結研第2部)

結核小血行転移から発病した骨関節、眼、腎等の結核に際し肺に著変ないことが多く、粟粒結核などほとんど認めない。他方肺粟粒結核でよく治癒するもの、急死者剖

検でこれあつて、他臓器結核のなかつたものもある。現今初感染淋巴腺巣を血行源と考えられている見地からは説明できぬことなので研究を企て変死者剖検所見に検討を加えた。和邇氏は肺外小血行転移35例を結核有所見者311例中に見出し、うち7例は両肺血行撒布例に見られたが残り28例80%に肺に血行転移がなかつた。私は死因を吟味し真の急性死341例中に肺外小血行転移33例を得た。うち5例は肺内にも血行転移があつた。28例84.8%にはなかつた。これは山下の研究で明らかな如く肺葉気管支第二分岐以下肺胞までは肺静脈に入るのであるからそれで説明し、原発巣から毛細血管、小静脈へ入つたものと考えられる。そこでは組織反応が弱く、血管障害が少ないから可能である。腺巣なかつた5例ではこれより他に考えようがない。すなわち腺巣から40.4%、原発巣から59.6%と、従来の考の逆になつた。

訂 正

32巻3号中下記を訂正いたします。

P、125~128、(図1)と(図5)のタイトル、(図2)と(図6)のタイトル、(図3)と(図7)のタイトル、(図4)と(図8)のタイトル、をそれぞれ入れ替える。

結 核	第32巻 第4号	毎月1回15日発行
昭和32年4月10日印刷		定価 120円(〒共)
昭和32年4月15日発行		(振替) 東京 53756
編集兼 発行人	隈 部 英 雄	東京都世田谷区経堂460番地
印刷所	王 文 社	東京都中央区越前堀2ノ24 電話 (55) 5087・5088
発行所	日本結核病学会	東京都千代田区神田三崎町1ノ2 電話 (29) 1501~5